MCC 三河湾クルージングクラブ会報

平成２３年７月８日発行 第３７８号

会報編集部
e-mail naka@aichi-mcc.org
http://www.aichi-mcc.org

目　　　次	行　事　予　定
表 紙　６月スモールレーススタート	７月 16-17 日　MCC 三河湾周遊レース
Ｐ　２，３　６月早朝レース、全艇ＤＮＦ 各艇コメント	７月 24 日　海の日体験乗船、ラグナマリーナ
Ｐ　４　６月スモールホープ優勝	７月 24 日　スモールクルーザーレース
Ｐ　５、６　震災ボランティア報告	７月 29-31 日　パールレース
Ｐ　７－　蒲郡マリンカップレース	８月 ７日　蒲郡マリンカップヨットレース
	８月 28 日　理事長杯ヨットレース

MCC海のたより7月号・MCC海のたより7月号・MCC海のたより7月号

全艇ＤＮＦ

６月早朝ＭＣＣカップレース　各艇コメント

アルミス

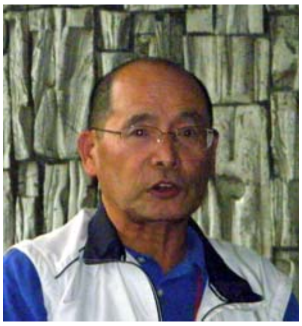
ジャストスタート後､大島沖で風が無くなるが､風道を探しながらトップで豊橋ブイを回航！梶島へ向かう。
南からの風を期待して沖へ向かうも、岸寄りに風があり、後続艇に追いつかれながらも、トップで梶島を回航できた。
が、その後どこを見ても風が無く、タイムリミットに間に合いそうも無くリタイヤとなりました。

うらなみ

梶島へ向かう時に、梶島の北からの風が吹いたときは、“もらった”と思いましたが、
その後風が止まり、南から風が吹いてきた時に全てが終わりました。

オデッセイ

“微風のオデッセイ”はこのレースに勝負をかけ、少しの風をも掴みながら船団をリードしていました。
目前のアルミスさんに、追いつけ追い越せと試行錯誤しながら良いポジションにつけていましたが、梶島付近は無風････周りの船もジブを降ろしてエンジンをかける始末となり、ノーレース。
幻の優勝となりました。　　残念！！



スーパーウェーブⅥ

無風の中潮のおかげ(?)で、梶島ブイを２番手で廻れた。タイムリミットが残念！
(陸勤の長坂)自宅の PC でレース艇の動きを見ていて、いつ蒲郡 Y･H へ出迎えに戻ろうかと思っていたら、あまりにも動きが悪くて PC が壊れたかかと思いました。

セレスティーヌ

コミッティー有利の天候を願いつつ、作戦を練っておりましたが、残念な事に、梶島ブイを廻る前には、
もう、タイムリミットには間に合わない事を確信してしまいました。
スタート時には、皆さんそこそこ走っていかれ、その後、無風、先行艇有利風と､「我々だけに神風を！」
との､勝手な願いも届くわけもなく､他艇に一度も近づく事無く､終わってしまいました。
疲れるレースで、結果もノーレースとなりましたが、これもヨットレース。大変楽しい１日を過ごせました。

ダンシングビーンズ

スタートは真ん中でまずまず。しかし、だんだん先行艇に離され、途中、風が無くなった後、先行艇に良い風が入り、さらに置いて行かれる展開となってしまった。ここで、意気消沈。あきらめの気持ちを持ちつつ豊橋を回航。
最短で行こうという事で、西浦に向けて走っていたら風がうまく振れ、梶島では３番まで

順位を上げる事ができた。しかし、それ以降も風が吹かず、結局ノーレース！とても疲れましたが、途中で順位を上げる事が出来、まぁ楽しめました。
ダンシングチームはトヨタ系で、7月～9月は木金休みとなり、次回参加は10月となります。今後とも宜しくお願いします。

ベ　ベ

シャキッとしないレースが続き年を感じます。年に一本は勝ちたいと思います。

ホーネット

とにかく長いレースで、時間ばかり過ぎてタイムリミットになる事が分かっていても続行しました。
スタートは上マークから良い風をつかみ、トップ艇のアルミスにおいて行かれる事無く、豊橋潮流ブイまで･･･、
と思いましたが、どんどん遅れ、アルミス、オデッセイとの差が開いてしまいました。
次の梶島ブイまでは、本船の間を通りながら、一発先行を考えたが、他艇と同じコースとなり、先行どころか、マークを間違えて遅れてしまいました。風の振れをしっかり掴み、昼寝させずに頑張れば、順位を落とさずに行けたかと思います。次回ナイトレースは、パールの練習を兼ねて頑張りたいと思います。

ルートリス

朝起きると、あがっていると思っていた雨がポツリ、ポツリ。「いゃ～、これは吹かなさそうだなぁ～」と思いつつヨットハーバーへ。今日は7人揃っていてメンバーは十分。
スタート5分前のホーンが長く、延期と勘違いしてスタートでもたつくが、その後、豊橋ブイには、まずまずのポジションキープ。梶島ブイには、風が良い方向に振れ、前方集団に少し近づいたような気が･･･しかし、いかんせん、風がまた落ちた。
距離はまだまだ。朝早くて眠～い！　13時35分まで粘りましたが、前方の艇がジブをおろし始めたのを見て、我々も諦めがつきリタイヤでした。

スタート時、かすかな風

梶島回航後、左からｱﾙﾐｽ､ｽｰﾊﾟｰｳｪｰﾌﾞ､ﾀﾞﾝｼﾝｸﾞﾋﾞｰﾝｽﾞ

下の写真は蒲郡荘のアフターパーティ、航跡図を見ながら・・・・

ＭＣＣスモールボート６月ポイントレース優勝

ホープ　北河

海陽ＹＨにつくと、風はやや強く、曇り空で雨も落ちてきそうな天候であるが、すでに「バイキング艇」は強力なメンバーで準備万端の状態である。

旧蒲郡ＹＨへ艇を廻航すると「はやぶさ艇」も準備万端、しかしほかの艇がいない。コミッティーは「あや」、「ハニービー」はメンバー不足で不参加である。

今日のコースはいつものように風を見て艇長会議で決定。上マークを蒲郡ＹＨ沖、下マークを竹島手前のやや岸よりのソーセージ２往復コースとし、スタートとフィニッシュを赤灯台沖ということで３艇でブイ設置に出港した。

わがホープは、スタートは赤灯台寄りが有利と決めていたが、スピンのセットを変えている時、スタートラインから離れているのに気付き慌ててラインに戻る。戻れたのが３０秒前、スターボーで２艇を押さえ即タックしスタート。

バイキングのスピードにやや遅れたが、上マーク手前でバイキングに１艇身先行できた、が、上り切れず先行されてしまった。後は離されないようスピンダウンは下マークぎりぎりまで頑張り、上りはスピードとコース取りに集中した結果が、修正タイムで１２秒差となり勝つことができました。

蒲郡荘ではビデオと航跡を見ながら一喜一憂し楽しい一日でした。

コミッティーとレース参加の皆さん、ありがとうございました。

次回も楽しいレースとなるよう頑張りましょう。

コメント	梅雨空の中集まった艇は、バイキング、はやぶさ、ホープの精鋭３艇 風は東、コース設定を･･･スピンスタートを止めて上マークを設定、竹島下マークの2往復に 3艇にそれぞれマークを設定してもらい準備をすすめた スターボーのホープに対しポートではやぶさとバイキングがアプローチ ホープは2艇を押さえてタック、バイキングはスピードをつけて上手に出る 上マークはバイキング、ホープ、はやぶさの順に回航、でもスピンアップが遅れている 竹島マークまではポートのスピンラン、スピンダウンをぎりぎりまで我慢のホープ お互いミスを重ねながらも少しづつの努力の積み重ねが勝敗を左右 風に恵まれ40分程度で終了。結果はホープが優勝、岡から見ていて楽しいレースでした。

名称		6 月ポイントスモール							
コース	Ｓ－上－竹島－上－竹島－Ｆ								
距離		3.2	マイル						
風速		5m 以下							
スタート		11:00:00							
							(B)	(A*B)	
セール No	艇　名	TYPE	所属	MRC	到着時刻	着順	所要時間	修正時間	順位
6496	Hope	YAM21C	SCR	0.817	11:37:11	2	0:37:11	0:30:23	1
6499	Viking	X79	SCR	0.885	11:34:33	1	0:34:33	0:30:35	2
1	HAYABUSA	Far727	SCR	0.861	11:45:17	3	0:45:17	0:38:59	3

東日本震災ボランティア参加報告

ボラセンの受付風景

先回、アルミスの杉浦氏から報告がありましたが、私中村も参加してきました。
ＲＳＹ（名古屋のレスキューストックヤード）主催のボランティアバスに応募して６月２８日から７月２日までの４泊５日、現地作業は３日間、娘を誘い二人で参加しました。
震災支援には義援金のほかに実働でも参加できる立場なので機会を探していたところ杉浦さんから話しを聞きその気になりました。杉浦さんから聞いた足湯、対話、心のケアについては自信がないが皆さんがやれていることなら何とかなるだろう、できることを手伝えばよいだろうと割り切っての参加でした。
事前準備はまずはボランティア保険の加入、携行品はＨＰから資料を調べ準備、寝袋、手袋は革製を、長靴には踏み抜きを、マスクも用意しカッパはどんなものにしようか、梅雨時だし下着等は毎日換えるだろうし・・・・等どんどんかさ張る。大きな荷物になってしまった。（結果半分は使用しなかった）
当日は久屋大通りの事務所に８時集合、１時間ほどの打合せ後、マイクロバスで出発が９時過ぎでした。メンバーは男性１２名、女性２名、運転士３名、この打合せの中で陣をまとめるため各種役割が当てられ私たち親子がリーダー、サブリーダーになってしまいました。
小牧から中央道、長野道、更埴からは上信越道、関越道、北関東道、東北道にそして仙台南ＩＣからは仙台南部道を経て仙台港北ＩＣ、多賀城市に降りたのが２０時でした。明日からの粗食にそなえて牛タン焼きでお腹を満たし七ヶ浜町ＲＳＹ現地事務所、きずな館に到着が２１時半、長旅でした。
到着後役割別に業務引継ぎ、２３陣は安城市の社協が募集し集まった皆さんでした。その後２４陣のミーティング、明日の作業分担を確認しメンバーに説明、割り当てをリーダーがまとめます。話し合いはしたものの希望の職種もあるでしょうが３日間交互に変わればよいとして女性以外はリーダーが指定しました。
明日はきずな館の食事担当兼喫茶担当は３名、国際村仮設住宅集会場での喫茶担当が２名、残り９名はボランティアセンターでの指定業務です。ちなみに２日目はきずな館喫茶担当３名、国際村喫茶担当が２名、足湯担当６名、残り３名はボランティアセンターでの指定業務。３日目はきずな館喫茶担当４名、国際村での喫茶担当が２名、残り８名はボランティアセンターでの指定業務でした。
いよいよ実働初日、私はボランティアセンターへ、受付名簿に登録し業務は何があるか？個人宅の片付け、引越し手伝い・・・・９名揃っての作業がよいとの意見で菖蒲田浜海水浴場の清掃作業に手を挙げ応募、参加できました。浜への参加は５団体と個人参加の皆さんでした。午前は１５０人ほどが参加、午後には個人宅作業を終えた３０人も加わり大所帯。広い浜は多人数で頑張ってもほんの少ししか清掃できませんでした。
１６時にはボラセンに戻り解散、シャワーを浴びて夕食を待ちます。夕食後はミーティング、作業チーム別に今日の報告をして参加しなかった作業も共有化します。その後は個人別に今日出会ったことの印象、感想、そして明日の目標を発表しあって締めくくります。明日も頑張るぞー！！
２日目、足湯担当もリーダーが割り当てました。自信のない人ばかりでしたが夜のミーティングでは担当させられて良かったとの評価が多く安堵、喫茶担当の会話もうまくいったようです。案ずるより生むは易しでした。
天候にも恵まれ３日目も順調に作業、それぞれ何かを掴み帰れました。お疲れ様でした。

流木、コンテナ、広い砂浜

集積した材木の前で

私の３日間のミーティング時の感想メモを紹介します。
実働初日、
全損被災した家、がれきの田畑、少し離れた高台には無傷の家がある。天国と地獄が同居している風景。この中で暮らしている人たちの思いは複雑なんだろうな。とにかく少しでも役立ちたいとの思いで来た。その実践を明日もやるのみ。

２日目、
地元要望の大漁旗洗濯に出向いたお陰で地元の方と一緒に作業できた。会話についていけない方言の飛び交っていたことには、びっくりした。一緒に活動したボランティアの中に福岡、山口と遠くからの応援者、日本語会話の不自由な外国人応援者とも働いた。明日は最終日、気負わず頑張ります。

３日目、
オープンカフェ対応で仮設住宅の方の話を聞いた。地震時何処にいてどんな風に避難した等３人の女性から聞けた。日頃から非常袋を準備していた人、すぐに戻れると思い何も持たずに避難した人、あらためて日頃の訓練が必要と思った。また来る機会を作って来るつもりです。

ＲＳＹボランティアバス２４陣の記録

ボラセン作業、大漁旗、鯉のぼり洗浄

作業マッチングで応募した１１人、ＲＳＹからは３人、他には福岡、山口、外国人等多彩な顔触れでした。
作業は津波被害で泥砂まみれになってしまった代ヶ崎地区、地元のお祭り用で公民館に保管していた思い出一杯の大漁旗や鯉のぼり、代ガ崎の皆さんは早く綺麗にしたいと思いながら・・・・やっとその気になってボラセンに依頼したと言う。
私達は大漁旗一枚一枚、鯉のぼり一つずつ心を込めて洗いました。洗った大漁旗、鯉のぼりは地元皆さんが被災地内に臨時に掛けたロープに繋ぎ順次天日干し。
折りからのさわやかな青空のもと高く舞い上がった大漁旗と鯉のぼりは被災から立ち上がる代ヶ崎地区の皆さんを大いに元気付けた事と思います。
他にテントやブルーシート等も洗い作業を終って帰る私達を代ヶ崎の皆さんが手を振って見送ってくれ、作業をした私達も嬉しい気持ちになりました。（稲垣）

きずな喫茶、オープンカフェの新規オープン

２４陣が２９日初日の作業を終えた２日目の夜、事務局から「きずな喫茶」の「オープンカフェ」を新規に開いてほしいと提案された。喫茶は仮設住宅の人たちの語らいの場をとＲＳＹが運営している重要な行事である。これをさらに充実させようとの計画である。
依頼された喫茶担当の３人は３日目の朝から事務局の要望を聞きながら開設準備を進めた。もちろん定例作業の合間を縫ってのこと・・・・ポスター、集客のための招待状の手作りそして、机、いす、ポットなど備品の準備ｅｔｃ。

さらに招待券はローラー作戦のように仮設住宅で直接「来てね」と手渡し。路上で会えた人には直接呼びかける等事前対策も午前中に実行した。午後１時の開店時間「きずな喫茶オープンカフェ」に数分遅れて到着。すでに一人の男性が待っていたのに勇気付けられ慌しくオープン。
招待券を手にした人も来る。人待ち顔の喫茶とは違う雰囲気。さすがに暑いのでオーダーは冷たいものが売れる。飲み物を渡し話を聞くのは通常の「きずな喫茶」と同じだ。ＲＳＹのスタッフも参加し根付細工の臨時講師をしていただきカフェに笑顔を呼んだ。葬式帰りの人、巡回中のお巡りさんも呼び込んで結局１６人が途切れることなくカフェを賑わし成功裏にオープンできた。
ただ待つだけでは客は来ない。良い見本であった。（中野）

第13回 蒲郡マリンカップ ヨットレース

夏は海で遊ぼう！
スナメリの泳ぐ海を守ろう！

2011.8.7(Sun)11:00 Start

主催　蒲郡マリンカップヨットレース実行委員会
共催　三河湾クルージングクラブ・白谷ヨットクラブ・JSAF 外洋東海三河湾 F
協力　三谷漁業協同組合・三谷漁港利用者会ヨット部会
問合せ・申込先　Eﾒｰﾙ naka4401@sk2．aitai．ne．jp FAX 0533-57-4401

夏は海で遊ぼう！スナメリの泳ぐ海を守ろう！！

第１３回蒲郡マリンカップヨットレース

２０１１．８．７（SUN）

１１：００　START！

コース　三谷－小島（東）－帆走区域灯標－小島（東）－三谷

（大島、小島、仏島、三島めぐりレース）
夏・恒例の、楽しいイベントを企画しました。
三谷漁業協同組合の協力を得て、レース後は魚市場でバーベキューです。
レーサーもファミリーも一緒に楽しみましょう！！
賞品多数！乞うご期待！

主　　催　　蒲郡マリンカップヨットレース実行委員会
共　　催　　三河湾クルージングクラブ、白谷ヨットクラブ、ＪＳＡＦ外洋東海三河湾Ｆ
協　　力　　三谷漁業協同組合、三谷漁港利用者会ヨット部会
適用規則　　2009-2012 国際セーリング規則、帆走指示書
参加資格　　小型船舶安全検査合格艇　　　乗員制限　　小型船舶安全検査定員以下
出艇申告・艇長会議　　８月７日(日)９：００　三谷漁港魚市場

申込締切　　７月３１日(日)

申込方法　　郵送または FAX　艇名、艇種、ｾｰﾙ No、連絡先住所、氏名、電話、FAX（様式別紙）
申込先　　蒲郡マリンカップヨットレース実行委員会
FAX　0533-57-4401　郵送先　443-0104 蒲郡市形原町三浦町 11-3
参加料　　30f 未満 8 千円、30f 以上 1 万円
（バーベキュー参加料を含む、炭、食材、その他を用意いたします。）
振込先　　三菱東京 UFJ 銀行名古屋営業部・普通・No2334627・口座名 ﾖｯﾄﾚｰｽ実行委員会

表　　彰　　８月７日(日)１４：００　三谷漁港魚市場
部門分け・レーサー部門、クルーザー部門
クラス分け・各部門の参加艇数に応じてクラス分けする。
修正時間システムは、本レース独自のものを使用する。
各部門、各クラス別上位艇を表彰する。全艇に参加賞あり。
泊　　地　　８月６日(土)は、三谷漁港内に係留可、事前申込要
問合せ先　　FAX0533-57-4401 または E ﾒｰﾙ naka4401@sk2.aitai.ne.jp にお願いします。

お願い

体験乗船を一部艇に義務付けます、協力をお願いします。
各艇、バーベキューコンロを持参してください。
魚市場の下は濡れています、腰掛用にシートを持参してください。
ゴミは、各艇持ち帰っていただきます。ご協力ください。

第１３回　蒲郡マリンカップヨットレース　参加申込書

艇　　名　　　　　　　　　　　　　（漢字等の場合、カナを付けてください）
セールNo　　　　　　　　　　　　　（無い場合、無しと記入してください）
艇　　種　　　　　　　　　　　　　（ヤマハ２３－Ⅱ等、詳しく記入してください）
全　　長　　　　　　　　　m,feet
泊　　地　　　　　　　　　　　（通常、係留等しているマリーナ名を記入してください）

所有者（代表者）氏名
　同上　　　　　住所

連絡責任者　　　氏名
　同上住所（ 郵便番号　　　　　）
　同上　　　　　電話　　　　　　　　　　ＦＡＸ

参加料　振込日　　　　　年　　月　　日

レース前夜、三谷漁港に　　　係留したい、　係留しない

申込締切　７月３１日（日）
申込み先　蒲郡マリンカップヨットレース実行委員会
　FAX　０５３３－５７－４４０１
　郵送　443-0104　**蒲郡市形原町三浦町** 11-3
　Eﾒｰﾙ　naka4401@sk2.aitai.ne.jp

ハンディキャップ（修正時間係数）算出資料

艇種別の標準データ等から、本レース独自の修正時間係数を算出します。
次の項目について〇印等でお答えください。

艇　　種　　　　　　　　　　　（ヤマハ２３－Ⅱ等、詳しく記入してください）

ファーリングジブ　　　使用、　不使用

プロペラ　　　　　　　船外機、ﾌｫｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞ、ﾌｪｻﾞｰﾘﾝｸﾞ、固定２翼、固定３翼

出艇申告時に別紙乗員名簿を記載提出していただきます。 当日提出 してください。
乗員の氏名、性別、年齢、住所(市町村名)及びコメントを記載してください。

第１３回　蒲郡マリンカップヨットレース　乗員名簿

当日提出

艇　　名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　艇種 ＿＿＿＿全長 ＿＿＿feet

セールNo ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　泊地 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

所有者（代表者）氏名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

所有者（代表者）住所 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

電話＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　FAX ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

	氏　　名	性別	年齢	住　所　（市町村名）
（艇長）				
2				
3				
4				
5				
7				
8				
9				

コメント（各艇紹介に使います、乗員・艇の特色などを記入してください）

不足は裏面を使用ください。